

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立目黒西学校
校長 田井 俊行

令和7年度 目黒区立目黒西中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年7月5日(土) 午前10時30分～午後1時00分

- ・授業見学
- ・学校経営方針説明
- ・意見交換、質疑応答

(2) 第2回実施日時 令和8年2月20日(金) 午前10時30分～午後1時00分

- ・授業見学
- ・学校評価報告
- ・意見交換、質疑応答

2 参加者

- ・辰巳 ヒロミ (緑ヶ丘自治会長)
- ・飯田 一彦 (大岡山西住区住民会議)
- ・中里 謙一 (トキワ松学園教頭)
- ・門司 隆明 (大岡山東住区住民会議)
- ・長谷川 裕 (平成29.30年度親師会(P T A)会長)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎ (成果)、● (課題)、 ● (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎統合初年度で、肯定的評価が保護者 87.8%、生徒 91.7%、地域・教職員 100%と、高い数値を達成することができた。 ●既存の設備を活用しながらも、教職員の意識の高い組織力と、保護者・地域からの支持によって良いスタートができた。統合に向けて、不安な要素もあったと思うが、一つ一つの教育活動の実践や、情報の発信をとおして、学校と家庭、地	・今年度の取組をベースとして、3年計画で統合新校の目指す学校像を確立させていく。 ・研究開発学校としての「新しい学び」に挑戦しながら、学力の向上にも焦点をあて、学習の項目の肯定的評価を高められる教育活動を実践していく。 ・今後も保護者をはじめ、関係機関との連携を大切に教育活動にあたり、情報発信に務めていく。	・統合1年目ということで、様々な不安なこともあったと思うが、生徒が安心して充実した学校生活を送ることができておりとても良かった。 ・研究開発学校としての取組は、反省にあるようにもっと見える形でわかりやすく発信してほしい。 ・区内全体で中学校のアンケートの回収率が下がって

	域が連携を図り、取り組めたことが、充実した教育活動の展開に結び付いたと考える。		るが、校内の努力で、回収率を上げていたので、次年度も引き続き取組を続けてほしい。
II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎八中と十一中が統合し目黒西中となり、教育目標が「自律」「共創」となった。この目標は新校スタートと共に一年をかけて生徒保護者地域に根付いたと思われる。 ◎45分授業となり、生み出した時間で西中タイムを設定したことで、生徒の自律的な学びと、共創的な活動を意識的に取り組んできた。2年目以降、さらに工夫を重ね、その活動をより分かりやすく進化させていく必要がある。 ●45分授業になったことで生み出された時間を、どのように使うか研究を重ね、研鑽を積む必要がある。	・45分授業による生み出された時間をどのように生かすかを、より明確に生徒、保護者、教員が理解し合い、高めていけるよう、年度初めの保護者会や保護者連絡システムを通じて発信していく。 ・朝の学活までの時間を、「自律の時間」と「朝読書の充実の時間」として設定し活動を充実させる。	・何のために1時間の授業の5分を削って、45分授業にしているのか、明確に発信してほしい。また、5分短くなった授業の質の向上にもしっかり取り組んでほしい。 ・次年度は、より教育目標の「自律」と「共創」を意識した生み出した時間の活用をしていくため、その活動内容が生徒にとっても、教職員にとっても教育効果の高いものになってほしい。
III 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎90%以上の生徒が肯定的な評価をしている。このことから、道徳の授業を通して、相手の意見を共有し、よりよい生き方について考えていることがわかる。継続的に、学習用情報端末の活用が増え、発表に消極的な生徒も意見を述	・発達段階に応じた「いのちの授業」を通して、多様な性や男女共生、人権について学習することができた。 ・今年度開催されたデフリンピックにちなんで、デフリンピアン講義会を開催した。講義会と人権教育を関連させることでよ	・校内の掲示物を見ても、様々なところに人権教育を意識付けする掲示物があり、とても良い取組である。 ・先日の道徳授業地区公開講座でも、授業では、生命の大切さについて考え、協議会では、意見交換

	<p>べ、意見を取り入れた発表が行われている。</p>	<p>り広い視点から捉えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題や社会課題をテーマに、人権尊重の精神や障害者理解について深める取組を継続していく。 	<p>会や講師からの講義など、学校として道徳教育にしっかり取り組んでいる事が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議や人権講演会、いのちの授業など、生徒に人権について考える機会を多く設けているので、今後も特色ある教育活動として継続して取り組んでほしい。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の工夫やわかりやすさについて、8割近くの生徒が満足していると答えている。保護者の評価は、7割程度となった。「西中タイム」での学習時間の確保と、その内容を見直し、継続的な取組みの効果について、学校便りや学校ウェブサイトで保護者へ周知していく。 ●学力が二極化している現状も踏まえ、教科の特性を活かした生徒へのアプローチを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は「西中タイム」での学習活動の目的、内容、方向を明確化し、その振り返りまでをセットとして取り組んで行く。また、自分の苦手分野の確認や、仲間との学び合いを行っていく。 ・デジタルドリルを、授業や家庭学習で効果的に使えるように研修を行い、5教科を中心に復習や単元の確認を課題として定期的に配信していく。その結果を用いて、学習状況を把握した上で、指導や助言を行い、個別最適化された学習活動として取り組んでいく。 ・引き続き、保護者が理解できる丁寧な説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の回答が100%という結果については、非常に素晴らしいと思う。その学習指導への熱意が、子ども達の学力向上や満足度に結び付けられるように、頑張ってもらいたい。 ・自分の苦手な分野の確認だけにとらわれず、自分の得意な分野の取組も後押ししてあげられる活動も取り入れてほしい。 <p>→令和8年度は、探究学習の中で、自分の興味関心をテーマにした学習を実施していく予定である。</p>

		の場と周知の方法を考えていく。	
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎全ての分野で前年度を上回り、生徒、保護者ともに90%近くが肯定的な回答をしている。新しい形での体育祭や、人数が増えたことによる授業や部活動での充実感が高まったと考えられる。 ●体力向上については、生徒の中で能力の二極化が際立っている。能力の底上げとして、体力テストの数値の向上をより一層進めていく必要がある。	・授業内でも、東京アルファ（東京都統一体力テストデジタル集計システム）の結果を活用して、東京都統一体力テストの運動要素や、体力項目を意識し、生徒たちが前向きに取り組める内容を各單元の中で取り入れていく。	・体力の低下については、学校だけではなく、区や都、全国的な課題となっているので、課題の解決は容易ではないが、目黒西中として、保健体育の授業での体力の向上や、部活動の活性化などの取組で体力向上や積極的に体を動かす生徒が増えてほしい。 ・統合したことでの、体育祭の盛り上がりはとても良かった。引き続き充実した行事にしてほしい。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎統合により生徒の数が増えたことで、授業や行事に活気があふれ、係や委員会、部活動の数も増えたことで学校全体の教育活動が活発になったと思われる。	・行事や活動の精選を行いつつ、生徒が主体となり、考え実行していく場面や機会を増やす工夫をしていく。	・統合して生徒の数が増えたことで、体育祭や学習発表会が活気に溢れ非常に盛り上がっていた。 ・その他にも、部活動の数も増え、生徒の教育活動全体が活発になる事で、より学校が魅力的になっていくと感じている。 ・外部の人材の活用も進めていけると良い。

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>◎落ち着いた学校生活を過ごしているかの問いについては、昨年度と同様に9割の生徒が落ち着いていると回答した。統合による落ち着きの無さを感じることなく、学校生活を過ごすことができたのは、大きな成果である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を落ち着いて過ごしているかの問いに「十分あてはまる」の回答が保護者より、生徒の方が約13ポイント高いことから、生徒の学校の様子が伝わっていないと思われる。保護者に学校の様子を見てもらう機会を増やしたり、学校ウェブサイトや学校便り等で様子を伝える機会を増やしたりするなど、改善がしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合した学校として、学校公開での授業の様子や、登下校の生徒の様子を見ても非常に落ち着いている様子が分かる。 学校生活のきまりについて、校則検討委員会を開き、生徒取組を進める事ができているので、このようなことも外部に発信していき、保護者へも周知していけると良い。
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎避難訓練や安全指導を計画的に実施していることで、定着してきていると感じる。</p> <p>◎生徒・地域・保護者も一緒に、自転車安全教室を行った成果が反映されていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事故の未然防止の取り組みについては、生徒と保護者では、開きが見られ、保護者の理解が得られていないと思われる。そのため、安全教育についてのお知らせ等も学校ウェブサイト等に掲載するなどしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会が「目黒西中学校危険箇所等デジタルマップ」を作成しており、とても良いことだと思う。 様々な自然災害があるので、学校としての準備や備えを日頃からしっかり取り組んでほしい。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎大岡山、緑ヶ丘、中根の3小学校と教務主任同士で連携をとりあい、西中校区4校で教務主任会を行い、小中連携の在り方や小学生授業体験部活動説明会、R8年度の教育課程について話し合うことができた。また、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議後に、地域教育懇談会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4校教務主任会は今後も続けていく。 地域教育懇談会の運営についても、R7年度を踏襲し、行っていくとよいのではないかと。 小学校や地域、PTAに依頼して職場体験先を紹介していただいたりすることは今後のコミュニティスクールに向けて必要で 	<ul style="list-style-type: none"> 校区の小学校が3校となり、連携するために連絡・調整が大変になることもあると思うが、大切な取組なので、しっかり連携してほしい。 いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議では、中学生がリードしよくまとめられていた。

	<p>を行ったことも有意義であった。</p> <p>◎近隣の幼稚園・保育園。こども園とは、2学年の職場体験学習で連携を行うことができた。また、体育館や校庭を保育園の運動会に貸し出した。</p>	<p>はないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の幼稚園・保育園・こども園との連携は引き続き、職場体験学習と運動会時の校庭、体育館の貸し出しを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育懇談会についても、目黒西中学校区のやり方を引き続き検討していく。
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者への情報発信について、肯定的評価が9割を達成し、保護者連絡システムの運用に加え、学校ウェブサイトの活用効果があった。</p> <p>◎学校だよりについては、引き続き紙媒体と電子での配布を行うなど、必要な情報は、紙媒体での周知も大切にしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組が評価を得られたので、継続していく。 ・保護者連絡システムでの情報発信は、定着しているので継続していく。 ・学校ウェブサイトの内容は、次年度に向けて充実させていく。 ・学校生活の様子を、副校長と一部の教員だけでなく、各教員がタイムリーな内容をあげられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブサイトも毎日の配信は良いことである。 ・保護者連絡システムでの地域向けの発信は、非常にありがたい。情報を自分から見付けに行くことができる方もいるが難しい方もいる。その事を考えると配信タイプの情報共有の手段が非常にありがたい。
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎統合に伴い、「新しい学校を創る」ために熱意のある教職員が集まり、教育活動を実践した。意識の高い組織で互いを刺激し合いながら職務にあたり、教職員の評価は100%となったことは大きな力となる。この中で、職員室の雰囲気良く、コミュニケーションを気軽にとることで、教員間の連携の高まりとともに、人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・力のある教職員の中でも、区や都の研修の機会を大切にし、個の成長を図っていく。 ・若手教員の育成に関しては、より具体的な育成計画を示し、校内OJTの体制を構築していく。 ・校内研修を充実させるとともに、日頃の教科指導や生徒指導に関するOJTの機会を増やし、教職員全体のレベルアップを図 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、様々な教育課題がありながらも、目黒西中学校には熱心に学校教育に力を注ぐ教職員が多く在籍していることが素晴らしい。この熱意を生徒指導に役立てていき、良い学校を作りあげてほしい。

	<p>材育成にあたる指導や助言もスムーズに行うことができている。</p>	<p>っていく。</p>	
<p>X 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>○研究開発学校として取り組んでいる、1単位時間45分授業の実施により、時程の工夫が可能となった。生み出した時間の活用により教員の時間を確保できたことや、最終下校時間が17時30分となったことが良い方向に向かったと考える。</p> <p>●統合初年度ということで、業務の偏りが見られる点については、組織的な業務の遂行、効率化・最適化について検討していく必要がある。</p>	<p>・今年度の業務の実態を把握し、次年度の業務分担に反映させる。</p> <p>・業務を平準化できる部分と、職層に応じた業務については、バラランスをとり担当を割り振っていく。個に任せず、組織的な取組で連携して業務にあたっていく。</p> <p>・自動採点システムやデジタルドリルの活用も引き続き進めていく。</p>	<p>・教職員の時間外在校時間の話や実態を聞き、教職員のはた働き方が学校としてうまく機能していることが分かった。</p> <p>・ICT機器や新しいシステムを使うことも大切だが、何より子ども達との関わりの時間を一番大切にしたい教育活動はしっかりやっていたほしい。</p>
<p>XI サービス事故の防止について</p> <p>・サービス事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>○年度当初、八中と十一中の両校の、紙媒体と電子データの個人情報の管理が、非常に大変であったが、教職員の丁寧な作業で、無事に整理することができた。</p> <p>◎長期休業前の研修は、都の資料を基に研修を実施し、サービス事故防止に向けて啓発している。その他の時期や月ごとに心配されるサービス事故について</p>	<p>・個人情報の点検のフローを構築するとともに、確実に実施していく。</p> <p>・指導要録が電子データになったので、ハイブリッドの対応の学年と、完全に電子データ対応の学年が混在する期間が数年続くので、管理方法について明確にしていく。</p> <p>・世間で起きているサービス事故の内容について、目黒西中で絶対に</p>	<p>・報道であるようなニュースは、目黒西中学校では起こしてほしくない。</p> <p>・サービス事故防止に対して、様々な取組をしていることが分かった。</p> <p>・様々な事で、働き方が窮屈になってしまふことが心配である。</p>

	<p>ても、注意喚起の場面を設定し服務事故防止に努めていく。</p>	<p>起こさないための服務事故防止の取組を徹底して行う。</p>	
<p>Ⅻ 研究開発学校について</p> <p>・45分授業や、生み出された時間に取り組んでいる西中タイムの活動について。</p> <p>*独自項目のため結果を以下のとおり掲載する。</p> <p>Q 学校は研究開発学校として実施している45分授業の取組を通して教育活動の充実に努めている。</p> <p>保護者</p> <p>よくあてはまる28%</p> <p>あてはまる51%</p> <p>あまりあてはまらない4%</p> <p>あてはまらない2%</p> <p>わからない15%</p> <p>生徒</p> <p>よくあてはまる45%</p> <p>あてはまる48%</p> <p>あまりあてはまらない5%</p> <p>あてはまらない2%</p> <p>わからない0%</p> <p>Q 研究開発学校の取組として実施している「西中タイム」の活動は充実しているか。</p> <p>保護者</p> <p>よくあてはまる29%</p> <p>あてはまる46%</p> <p>あまりあてはまらない5%</p> <p>あてはまらない4%</p> <p>わからない16%</p> <p>生徒</p> <p>よくあてはまる20%</p>	<p>◎統合初年度は、2、3年生の学級の話合い活動やお互いを知るために、裁量の時間を多く充てた。そのため、5月に行われた体育祭や3年生の修学旅行に向けた取組をスムーズに行えることができた。</p> <p>◎水曜5時間目の後に30分の西中タイムを設けて、自己選択学習の時間や行事の準備や練習の時間に充てたことで、授業時数を大きくカットすることなく運営を行うことができた。</p> <p>◎45分の授業改善においては、学習用情報端末を活用する場面が増え、100%の教職員が意図的・計画的に活用していると回答している。</p> <p>●行事以外の西中タイムでは、何をやる時間なのか明確に伝わっていなかったことで、25%の生徒が充実した活動とはなっていないと感じている。</p>	<p>・次年度は、45分授業によって生み出された時間をより計画的に行う。朝の時間に「自律の時間」「共創の時間」を設定し、自己選択学習や行事を創る時間を設ける。また、体育祭や学習発表会の前には放課後30分に共創の時間、定期考査前は自律の時間をそれぞれ設定し、教育目標達成のため生徒主体の活動を展開していく。</p>	<p>・校長先生の話しの中でも、今年度、1年間実施してきた取組の内容がわかった。3年間でいろいろ試行錯誤していく中で、目黒西中学校としての成果を上げてしい。</p>

<p>あてはまる 55%</p> <p>あまりあてはまらない 17%</p> <p>あてはまらない 8%</p> <p>わからない 0%</p>	<p>● 45分授業に対応した教科の年間指導計画や授業内容の精選等、授業改善が求められている。</p>		
--	---	--	--